

第2回再発防止対策検証委員会(7/24)でいただいたご意見について

主なご意見	当社の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・企業人としてのコンプライアンスだけでなく、市民としての規範意識が必要。人間性を磨くということ。 ・人間的な成長に期待するだけでは足りない。信賞必罰で対応すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスマインド変革研修、集中教育を継続実施することで、コンプライアンスの社員への定着を図ります。 ・職場懇談会等での集団討議、コンプライアンスに関する勉強会のテーマに、「社会人としての良識ある行動の重要性」も取り上げます。 ・全従業員配布の「行動規範」の中で「違反の場合は懲戒規程による処分を受けることになる」と明記しており、違反事例には的確に対処いたします。
<ul style="list-style-type: none"> ・若年層への教育では、技術的なことだけでなく、安全の考え方、法令、保安規定、安全協定などの重要性を理解させることが必要。技術的には無駄と思われる作業や設備にもシステムとしての意味がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部門横断的な法令教育体制を構築し、電気事業法、河川法、消防法、労働安全衛生法に関する教育を確実に実施(H19/7～)し、法令遵守の重要性、法令の目的・運用(基準・手続き・作業管理等)の周知を徹底いたします。 ・安全協定についても、自治体対応箇所のみならず、発電所内の全ての所員への教育を実施するとともに、職場単位での集団討議のテーマとして議論することを通じ、理解を促進して参ります。
<ul style="list-style-type: none"> ・研修・教育の習熟度の検証方法を検討すべき。試験まではできないとしても、やりっぱなしでは意味がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員のコンプライアンス習熟度に関しては、研修終了時の自己評価に加え、コンプライアンスアンケート(H19/6, H20/2)、外部専門組織による調査・評価(H19/6, 12)で検証いたします。 ・パソコンを利用した「習熟度検査」(H20/1～)を実施し、各人の習熟度を測定することといたします。
<ul style="list-style-type: none"> ・職場単位の集団討議では、意見を出しやすいコンプライアンスリーダーを選ぶことが大事。 ・リーダーをローテーションすれば、意識が高まるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部所におけるコンプライアンス浸透の核となるコンプライアンスリーダー(85名)に加え、職場ごとのサブリーダー(358名)を対象とする研修を実施しており、より意見が出やすく一人ひとりの意識改革に結びつく職場討議を定着させてまいります。 ・また、職場討議の司会を順番に担当させるなど、リーダー以外の従業員の意識高揚につながるよう、運用面で工夫してまいります。

主なご意見	当社の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 原子力安全は、適切な「設計」、「設備」、「維持管理」によって確保されている。中長期的な原子力利用ということも念頭において、「<u>原子力は基本的に安全</u>」ということも説明してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>原子炉の「自己制御性」、「多重防護による安全確保」</u>などの「原子力の安全性」について、志賀原子力発電所の<u>施設見学会や講演会、地域の皆さまとの対話活動等の機会を通じて、再発防止対策とあわせてご説明</u>いたします。
<ul style="list-style-type: none"> 地域と一体となった原子力本部ということで、「地域住民」という言葉は重要。<u>運動会、地域大会等、地域の方々と一緒になって決意を新たに</u>するようなことはできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>原子力本部長以下、従業員一人ひとりが地域行事などに積極的に参加</u>することで、これまで以上に地域の皆さまとの結びつきやふれあいを大切にまいります。 現在、「隠さない企業風土づくり」と「安全文化の構築」を柱とする<u>再発防止対策を着実に実施し、地域の皆さまの信頼をいただくことを基本</u>としておりますが、その上で、<u>地域の皆さまと一体となった活動</u>についても取り組んでまいります。
<ul style="list-style-type: none"> <u>ヒューマンエラーをなくす努力</u>が必要。それを<u>社会に知ってもらう</u>ことも大事。 ヒューマンエラーは起こりえるが、<u>失敗しにくい装置やバックアップ</u>が重要。その努力を<u>地域・国民に認識してもらう</u>ことも重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒューマンエラーを含め、<u>過去の失敗事例からの教訓に学び、改善に取り組む</u>ことにより、事故防止へ繋げる仕組みを充実させてまいります。 臨界事故につながった<u>原子炉・CRD冷却水ヘッダ間差圧</u>については、警報窓を「高・低同一窓での表示」から「高」「低」別に分離する工事行ったところであり、さらに信頼性を向上させるために、自動的に差圧を低減する<u>設備対策を検討中</u>です。 これらの<u>再発防止対策への取り組みは</u>、地域の皆さまとの対話活動や広報資料等を通じて、<u>わかりやすくご説明</u>してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> <u>消火体制や耐震安全性</u>のことなど、国へ報告するとともに、<u>地元志賀町の町長・町民にしっかり説明</u>することが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> 柏崎刈羽発電所の情報収集に努め、確認すべき点はしっかりと<u>確認するとともに、対策として反映できるものがあれば、確実に実施</u>してまいります。 また、県民・地域の皆さまにご安心いただくため、<u>実施状況を適時適切に分かりやすくお知らせ</u>してまいります。